

【本日の目次】

1. 新着情報

- ◆誰も教えてくれない「投資」って セミナーのお知らせ！

2. 市況情報

- ◆本日の株価指標等
- ◆第一部前・後場概況

3. セミナー情報

- ◆+YOU ニッポン応援全国キャラバン開催予定

4. コラム

- ◆証券取引等監視委員会からの寄稿

=====
※ 以下については、証券取引等監視委員会のウェブサイト掲載にあたり、上記
目次 4. コラムを抜粋しております。
=====

証券取引等監視委員会からの寄稿

投稿 No. 126

朝日にゝほふ山ざくら花

証券取引等監視委員会事務局 証券検査課長 松重 友啓

最近、「日本の魅力やすごさを見直そう」という内容のテレビ番組が増えていることを知りました。“Self-praise is regarded, to say the least, as bad taste among us” (INAZO NITOBE, BUSHIDO THE SOUL OF JAPAN) な我が国にあっては非典型的な事象だと思われま。しかし、「すごい」か否かはともかく、筆者の職掌である市場監視に関連する分野においても、歴史を実感させられることはあります。

例えば、大森貝塚の発見で有名な米国人モースの著書『日本その日その日 (JAPAN DAY BY DAY 1877, 1878-79, 1882-83)』には、次のよ

うなエピソードが紹介されています（以下の引用中の仮名遣い等は筆者が適宜変更）。「大阪にいた時、一人の日本人が私（モース氏：筆者補注）に米の取引所へ一緒に行かぬか、非常に奇妙な光景が見られるからといった。その建物に近づくと奇妙な人の叫び声の混合が聞こえて来て、私にシカゴの穀物取引所を思い出させた。取引所にはいると、そこには同じような仲買人や投機人達の騒々しい群れがいて、身ぶりをしたり、手をふり上げたり、声を限りと叫んだりした。驚いた私は、私を連れて行った日本人に、一体いつこんな習慣が輸入されたのかと聞いたが、彼はまたこれと同じような集合をシカゴ、ニューヨーク、ボストンその他の大都会で見ることが出来るという私の話を聞いて、吃驚してしまった。この人達は米の仲買人で、全く同一な条件と要求とが、同一な行為を惹起したのである。」

江戸時代の大阪は、当時の経済の根元である米穀が集散し巨額の取引が行われる「天下の経済を左右する」地でした。元禄10年（1697年）、米穀を取引する「米市」が堂島に移転され、取引方法等の工夫が考案されていきました。やがて、現金・現物の米売買では「国元より積寄せの正米延着せし場合には商人共迷惑を感ずるのみならず、大いに融通を妨げしかば、…これを売繋ぎ買つなぐべ（く）…建物米を設けて期日を定め、その期限の間を延米売買とて約束取引せしもの、これ帳合米の権輿（事の起こり。帳合米取引は先物取引：筆者補注）にして、この方法米商にとっては極めて便利なるを以てその営業次第に繁昌し、単に相対取引のみにては渉らざるが故に、その仲間に支配人を設けて、敷金及び差引勘定等のことを一切取扱はしむる」ようになりました。享保6年（1721年）頃には畿内等の不作で米価が騰貴した中で、「大阪なる米市場の不正より起因したることならん」という、現代でも立派に通用しそうな？風説の流布を招くこともあったそうです。享保16年（1731年。1730年との説もあり：筆者補注）には、大阪における米仲買への株札（営業権：筆者補注）の付与が幕府から許可されました（以上、横井時冬著『日本商業史』より）。米国独立（1783年）の半世紀前のことでした。筆者が約20年前の米国留学中、「金融革新（financial innovation）」をテーマとする課題レポート作成のため苦闘した書籍・論文の中でしばしば論及されていた Dojima Rice Market の成立ちです。

我が国に限らず、どの国・地域でも、一定の規模・深度の経済活動が相当期間継続するのに伴い、取引等をより効率的に行うための仕組が工夫されていくものであり、市場に関する制度・慣行もこうして形成・発展してきたのではないかと推察しています。どこでの仕組も果たす機能は同様でしょうが、それぞれの具体的形態等には地理、風土、歴史等の違いに応じて異なる部分があるかもしれません。それらの中に効率性・実効性・安定性等が相対的に高く、かつ他所でも導入できるものがあれば、それが広く普及することで、世界の市場全体の質の向上につながる

ことが期待されます。グローバル化の進展著しい市場の動きに即応していくに当たっては、我が国独自の制度・慣行の特長を見つけ出し、それを、冒頭記載の我が国風“scenting morn’s sun-lit air, blows the cherry wild and fair”の如くに普及させていくにはどうすればよいか、という視点も持ちつつ、取り組んでいなければならぬと自戒しております。

※文中、意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

■証券取引等監視委員会ウェブサイト

<http://www.fsa.go.jp/sesc/index.htm>

■証券取引等監視委員会では、その活動状況やウェブサイトの更新情報などを配信しています。

<http://www.fsa.go.jp/sesc/message/index.htm>